



学校だより

墨田区立第三吾嬬小学校

校長 川中子登志雄

令和4年7月1日

7月号



自分の言葉で考える。

副校長 手山 晃洋

子供たちが待ちに待った水泳の学習が、6月20日(月)に始まりました。今年度は、学年ごとに実施しています。プールのコースラインは全て新しく引き直しました。きれいなプールで、子供たちは爽やかな表情で泳いでいます。

さて、今月の学校だよりでは、水泳のゴールドメダリスト北島 康介さんのコーチ、平井伯昌さんを紹介いたします。平井さんは、たくさんの一流水泳選手を育てているコーチです。ある雑誌のインタビューでこのような話をされています。

言葉というのは、実はスポーツ選手にとって、とても重要なものです。レースの結果やコンディションを自分の言葉を使って分析する、言葉で明確に目標をもつ、自らに言葉を投げかけることでレース時の緊張をほぐす、コーチやメディアとコミュニケーションを取る・・・どれを取っても、言葉の上達は競技の上達につながるのです。

平井さんが、このように考えるようになったのは、コーチとしての実体験からだそうです。

平井さんが、小学生の頃から指導していた選手が、高校生になって急に成績が伸びなくなったことがありました。その選手は、平井さんの言葉をいつも素直に聞き、言われた通りに練習に取り組んでいたそうです。平井さんは自分のコーチとしての働きかけに、どのような課題があったのか悩んだそうです。そして、平井さんが出した答えは、「『選手が自分の言葉で考えること』に力を入れていなかった」ということでした。

平井さんが、このように言葉の大切さに気付いたところに北島 康介さんと出会い、早速、自分の言葉で考えることをトレーニングで積み重ね、それが金メダルにつながったそうです。ぜひ、ご家庭でもお子さんに「自分の言葉で考える」ことを心掛けていただき、主体性の育成につなげていただければと思います。

チーム三吾小で、水泳指導に臨んでいます。

担任

限られた時間の中で、水に親しんだり、泳力を伸ばしたりする授業を考えています。

体育主任・水泳担当教員

校内における日程を組んだり、業者の方と調整をしたり、安全で楽しい水泳指導ができるように、計画を立てています。

養護教諭

健診等で、子供たちの健康状態を確認したり、ケガや体調不良者に対応したりします。

事務職員

水泳指導に必要な物品、薬品等の確認や補充を行います。

学校管理員

日々の使用水量の確認をしたり、水質管理や清掃の補助を行ったりします。

外部指導員・学習支援員

担任の補助を行い、水泳指導が、より充実するように努めています。

プール清掃業者

きれいなプールで、子供たちが活動できるように、プール及びプールサイドを清掃します。

プール塗装業者

プールのラインをきれいに引き(塗り)、気持ちよく子供たちが活動できるようにします。

学校薬剤師・保健所等

水質の検査を行い、子供たちが衛生的な環境で泳げるようにします。

保護者・PTA・子ども会の皆様

日々の健康管理に取り組んでいただいています。また、子供たちが安全に水泳の授業ができるように安全祈願をしていただきます。

プールロボ

作動中、プールの汚れを取り、きれいな水質維持の手伝いをします。

私もチーム三吾小!

〈行事の様子〉

セーフティ教室

6月4日（土）に向島警察署の方をお招きし、セーフティ教室を行いました。

1時間目、4～6年生の児童を対象に情報モラルについてお話しいただきました。写真などをインターネットにアップすると、知らないうちに個人情報が流出し危険な目に遭ってしまうこと、文章だけのメールのやりとりでは意思疎通がうまくいかずいじめにつながってしまうことを知りました。情報を発信する側も受け取る側も、情報の取り扱いには十分注意しなければならないことを学ぶ機会となりました。2時間目、1～3年生の児童を対象に不審者への対応についてお話しいただきました。動画を視聴し、体を動かしながら「いかのおすし」を確認しました。また、3年生の代表児童が不審者対応を実演し、「話しかけられても距離をとること」「ランドセルをつかまれたらランドセルを置いて逃げること」が分かりました。不審者に会ったときにどのようなことに気をつけるのかを学ぶ機会となりました。



〈学年の様子〉

3年生「ヤゴ取り」

5月31日（火）、プール掃除を目前にし、3年生がヤゴ取りを行いました。

昨年は数匹しか取れなかったと報告を受けていたので、ヤゴ取りを始める前には3クラス分の3匹でも取れたら良いね、と話していたのですが・・・子供たちがプールに入ると「ヤゴいたー!」と嬉しい声があちらこちらから聞こえてきました。3、4百匹は取れたのではないのでしょうか。3年生の理科では、昆虫の体のつくりや育ち方を学習しています。成長を間近で見られたことは子供たちにとって貴重な経験だと思っています。また、無事にトンボになって飛び立ったヤゴや、残念ながら羽化の途中で力尽きてしまったヤゴを見て子供たちは何を思ったのか、ぜひご家庭でも聞いていただきたいです。

